

## あとがき

名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、5年に一度、その諸活動を整理・評価することとしている。本外部評価・自己評価報告書は、2008（平成20）年度から2012（平成24）年度までの5年間を対象に実施したものである。

2013（平成25）年7月9日の農学国際教育協力研究センター教員会議において、担当を浅沼とすることが決定され、併せて、外部評価委員候補者として緒方一夫（九州大学熱帯農学研究センター教授）、宇佐見晃一（名古屋大学大学院国際開発研究科教授）および川北一人（名古屋大学大学院生命農学研究科教授・副研究科長）の3氏を選出した。3氏の外部評価委員候補者から委員就任の快諾を得て、外部評価委員会を2014（平成26）年3月14日に開催することを決定した。

それから、農学国際教育協力研究センター教員による自己評価原案の作成を行い、また、非常勤事務職員の協力を得て、名古屋大学中期計画に準じた農学国際教育協力研究センターの中期計画に基づいて実施された各年度の年度評価資料等を参考にして自己評価資料を取りまとめた後、2014（平成26）年2月18日と同月25日の2回自己評価を実施した。その結果を取りまとめ、同年3月5日に外部評価委員に送付した。当初の予定では外部評価委員会の1ヶ月前に自己評価結果を外部評価委員に送付することとなっていたが、このように遅れたことを担当者として大いに遺憾としている。

外部評価委員会が予定通り2014（平成26）年3月14日に開催され、緒方委員を委員長に選出した。委員会での討議の内容を外部評価委員会記録として本報告書に収録した。委員会での発言のテープ起こしを行い、各発言者に訂正・修正のコメントをいただき、一定限度内での会話体と文体の調整を評価担当者の責任で行った。外部評価概要のとりまとめに当たっては、緒方委員長を中心とし、宇佐見委員と川北委員のご意見やコメントを受けてまとめていただいた。

今回の外部評価を実施して、大学における教育の国際化の大きな潮流の中で、農学国際教育協力研究センターの果たすべき役割や業務を時代の流れを活かす方向で見直す必要があることが明確に指摘された。全国唯一の特徴を備えた研究センターであることを忘れないで、新たな方向を見出す努力が求められている。

本報告書が、本センターに関係する機関や関係各位にとってこれまで以上に理解を深めていただく上での資料として役立つことがあれば幸甚である。

最後に、自己評価・外部評価の取りまとめに予想以上の時間がかかり、本報告書の刊行が遅れたことは本担当者の責任であることをお詫び申し上げたい。

2014年9月

外部評価・自己評価担当 浅沼 修一